

●CTPセッターをご導入のお客様を対象とした新サービスです。CTPカーブを見直す事で、ベタ濃度・カラーバランスの最適化をおこない、印刷の刷りやすさを向上させます。(機長の負担を軽減)

1. 印刷物を診断し数値化したうえでレポートを作成
2. 診断結果を基に現状の印刷物の課題を抽出
3. 最適なCTPカーブを作成 (例JapanColor2011同等)

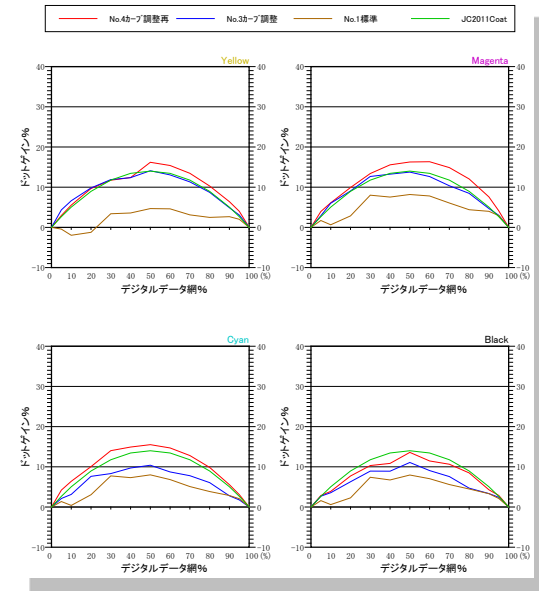
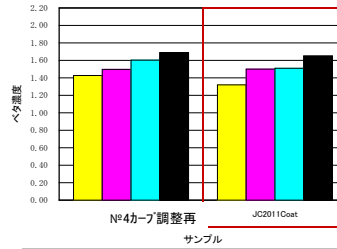
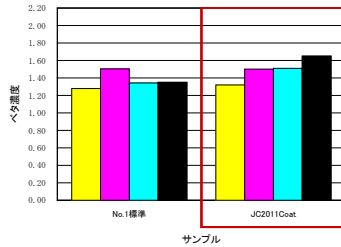
●色基準となった印刷物をターゲットにプルーフをカラーマッチングを行い、マッチング精度を上げる事で、刷り出し時間が短縮できます。

1. 刷り出しにかかる時間・労力を削減し、生産性が向上。
2. 刷り出しが早くなる事で、紙・インク等のコストが削減できます。

印刷物の品質を「見える化」し、定量的に評価できます。

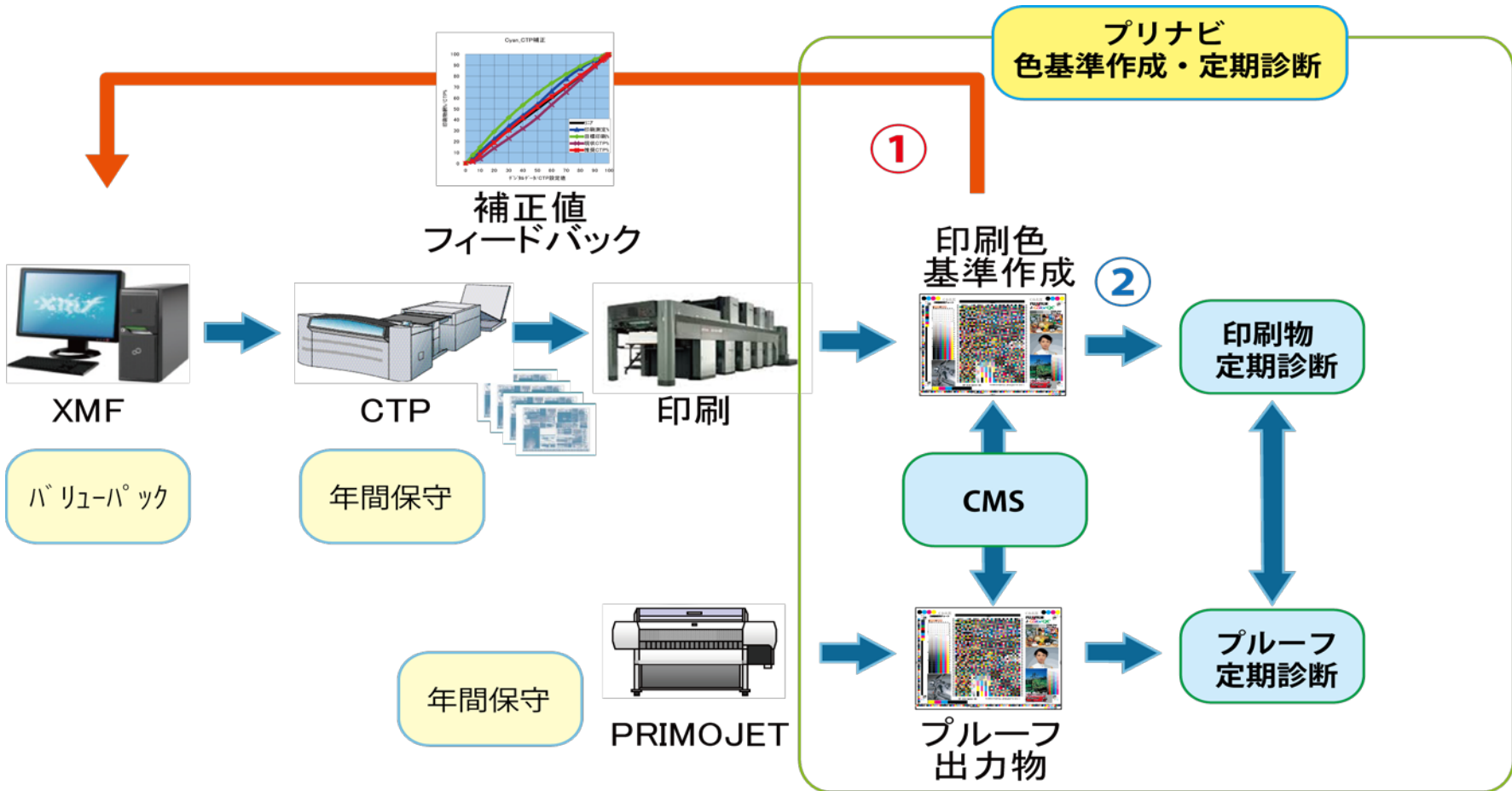
## i-ColorQC プリントナビゲーション

■サンプル間 ベタ濃度比較 (ステータス E 濃度値)

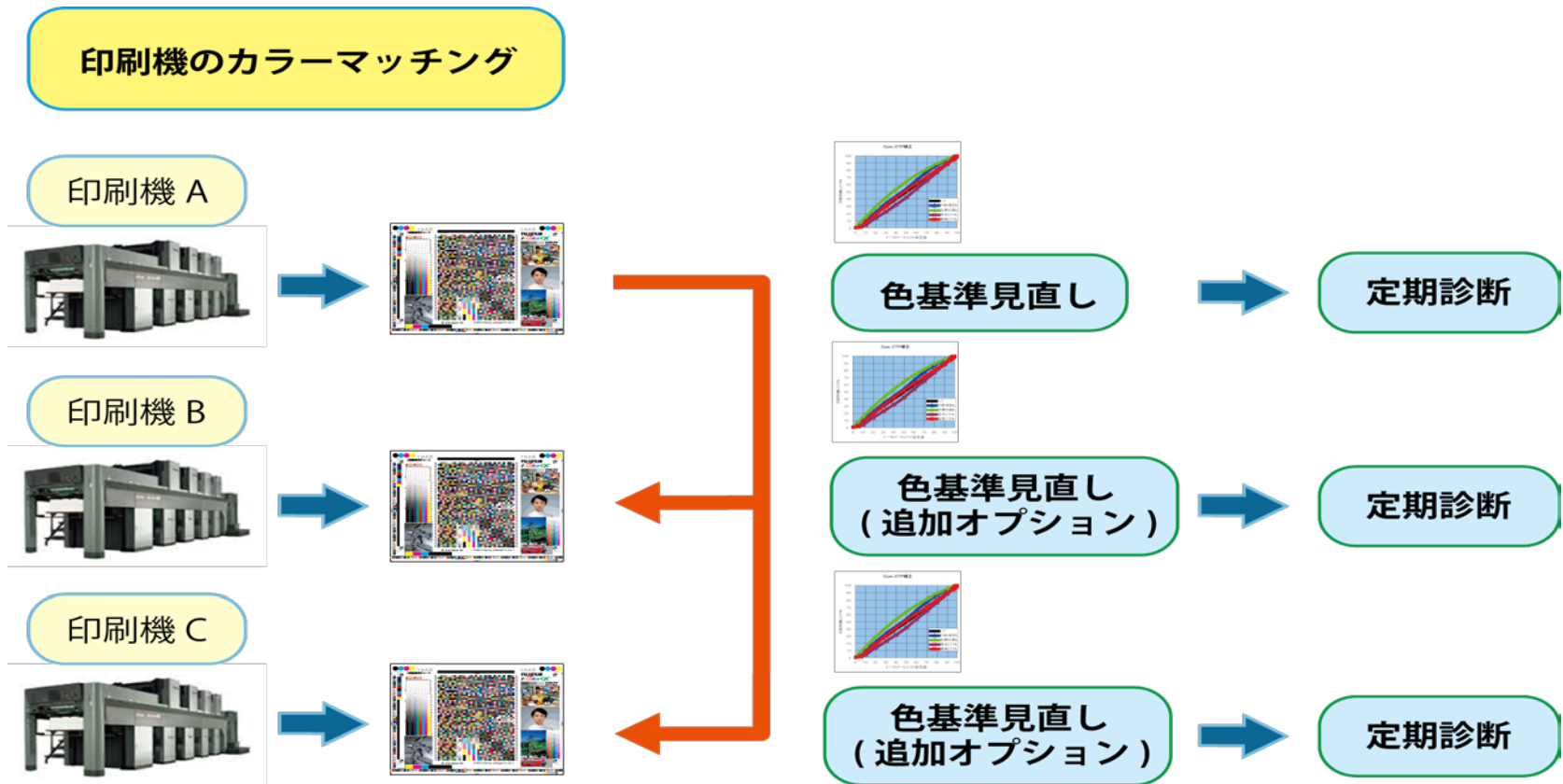


・視覚化する事により、印刷機の  
コンディションが把握でき課題の  
見える化ができます。

印刷ドットゲインのバランスを整える事で、  
プルーフと印刷物とのカラーマッチング精度が向上します。



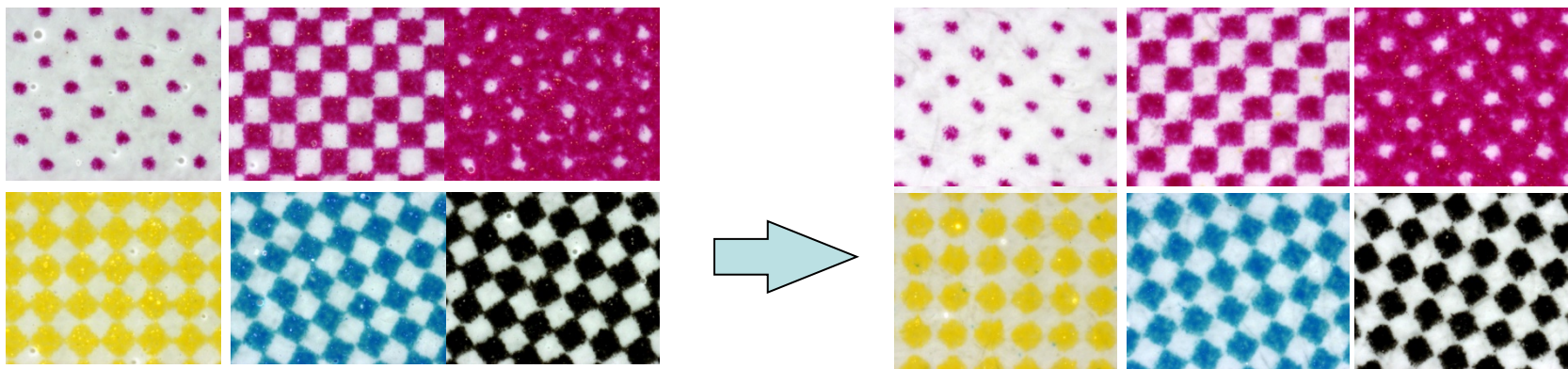
複数ある印刷機も、色基準機に合わせた色再現を印刷機毎に再現でき、カラーマッチング精度が向上します。



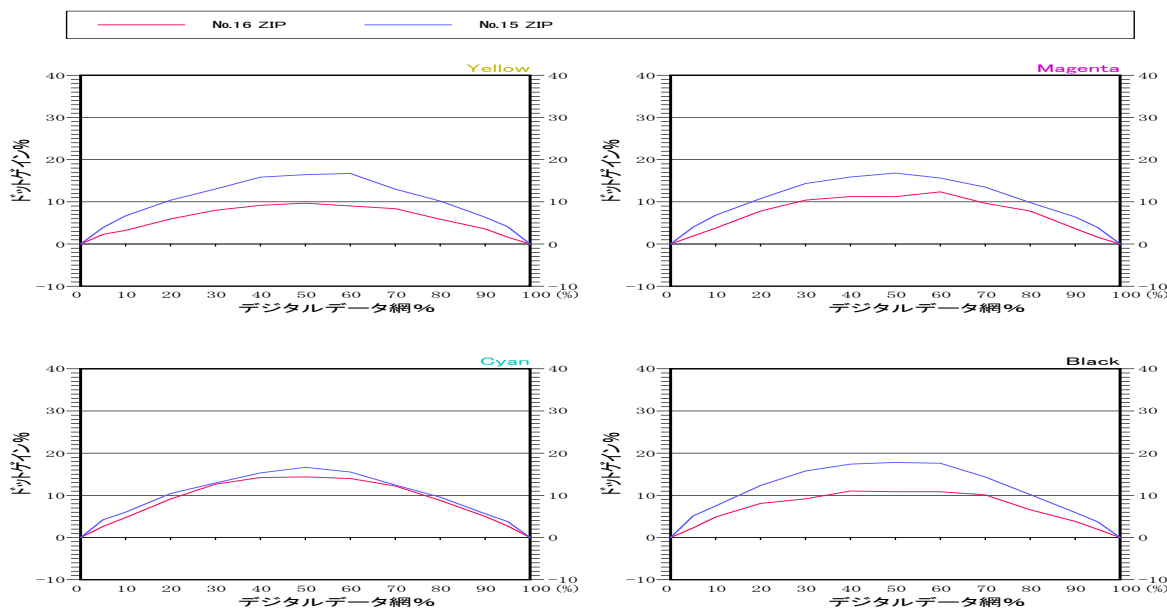
- プリナビ色基準作成後、定期的に印刷品質変動を数値化し報告します。
  1. 季節変動による、印刷品質の変化を報告。
  2. 印刷機で消耗するブランケット、ローラーの状態を面内ムラ・網点写真より分析し変化の要因を報告。（印圧の強弱）
  3. PRIMOJET（プルーフ）とのマッチング状態を報告。
  
- 色基準を維持するために、印刷物品質を定期的にチェックし、印刷機の仕立てを見直す事で、安定した印刷品質を維持する事が可能。
  1. 品質が変化した要因を探り、対処する事で安定した印刷品質となり、刷り出しにかかる時間・労力を削減し、生産性向上が維持できます。
  2. プルーフと印刷物の色味が安定する事で、刷り出しが早くなり、紙・刷版・インク等のコストが削減できます。

# プリントナビゲーション定期診断の効果

定期的に印刷物を「見える化」し、品質評価できます。



- ・網点比較する事により、経時変化(BK・M・Y)の網細りに気がつき、印刷機のコンディション(メンテナンス時期)が把握できます。



- ◆正しいグレーを再現できるようになり、諧調再現にも幅が持てるようになった。
- ◇焼き直しが減った事で、損紙やインキ量のほか、損版の発生も削減できている。
- ◆本機の色調整にも無駄がなくなり、これまで色合わせにかかっていた時間と労力が明確に削減できた。
- ◇データ制作側での画像色調負荷が格段に減った。
- ◆前工程と印刷工程の色の整合がとれ、仮にずれた場合でも、どこの問題か見える化できた。

- ◆20分掛っていた刷り出し調整が10分に短縮でき、ものによっては1発で合うようになった。予備紙も10~20%削減できている。
- ◇特に調整の難しい“人の肌の色”がより自然に再現できるようになった。
- ◆PODやプールのカラーマッチングもとりやすくなった。
- ◇インキの無駄が少なくなり、乾燥性が向上した、パウダー量も10%削減できている。
- ◆品質管理の体制を見直すきっかけになり、印刷機のメンテナンス状態や周期が把握できるようになった。



# プリンナビで2台の色味を合わせた効果をヒアリング お客様C社様の声

- 印刷機の号機間で特性ムラがあったが、マッチング後は差異がなくなった。  
顧客により印刷機を選ぶ必要が無くなった事で効率が良くなり生産性がアップ
- 基準ができた事で顧客の要望を捉え易くなり、クレームが無くなると共に刷り直しが無くなった。（特定の顧客のみだったので諦めていた。基準が無かった頃には個人の目の感覚で判断されてしまい、要望に沿えるまで刷り直しが発生した。刷り直して10万円以上の損失していた）
- JCを取得していないまでも準拠した品質を再現できる事でお墨付きの評価が得られている。基準に適合している前提があるので話がし易い。クレームにならない。顧客は準拠で納得している。（JC取得は手間が掛かり、取得するのが高額となるので考えてはいない。）
- 基準が出来たことで社内でも印刷現場とやり易くなった。
- 刷版の使用量が1割増/年にもかかわらず、インク量・材料費（損紙・パウダー・薬品など）はトータルで増えていない。
- プリンナビがコストダウンの全てに影響した訳ではないが、予想していたよりも効果を実感している。
- 外部に費用を支払っている事もあり、社内で印刷機の管理を行う意識を強く持たせる事ができた。
- トータルで診断して貰えるのはありがたい。費用対効果としては採算はあう。

## JapanColor取得後に経時変動を改善できた お客様D社様の声

- JapanColor を取得した際には合っていた色が、運用の中で変動し、自主的に毎月 1 回の色管理に取り組み始めたのですが、実際は時間が確保できなかったり、3 カ月に 1 回の確認時に基準に入れば良いと考えるようになり、多少の色ズレを許容してしまうようになりました。  
その結果、本社のプルーフとの色ズレやクライアントからの指摘が発生するようになりました。そんな矢先に、プリナビを提案頂き。一から色管理を見直そうということになりました。
- JapanColor の印刷認証はとれていたものの、その中で発生する色ズレの原因を社内で特定することが難しく、そこで出会ったのがプリナビだった。
- 数値化することで、変化があった時に、どこで何が起きたかが推測できるようになることが重要。
- 現状の色を維持するための努力として、印刷機の掃除の後にはニップ圧を確認ローラー交換や調整など、印刷機のメンテナンスに取り組むようになり、なるべく基準値から外れないような管理を心掛けています。
- 刷版のトナー量を調整して頂いたおかげで、かなり色合わせし易くなりました。ホータだけでは、濃度で調整することしかできず苦労しましたが、今はスリを感じず印刷できています。